

**令和6年度 高鍋町立高鍋西小学校 学校評価書 (自己評価・学校関係者評価) 4段階評価 【 A…よい B…概ねよい C…あまりよくない D…よくない 】**

教育目標	生命の尊重を基本理念とし、地域・学校・家庭の機能を生かし、相互の連携を図りながら「たくましい体・豊かな心・すぐれた知性」をそなえた思考力・表現力・実践力のある児童を育成する。			
目指す学校像	<input type="radio"/> きまりよい学校 (当たり前のことが当たり前にできる子どもを育てる学校) <input type="radio"/> きれいな学校 (清掃が行き届き、整理整頓がよく、花いっぱいの学校)	<input type="radio"/> 夢のある学校 (互いの良さを認め合い、分かる喜びを大切にする学校) <input type="radio"/> 家庭・地域と連携する学校 【C S】 (つながり・絆を大切にし、子どもを育てる学校)		
目指す児童像	<input type="radio"/> 元気な子ども (しっかり食べて、明るく元氣でがまん強い子ども) <input type="radio"/> よく考える子ども (よく見て、良く聞き、よく考え工夫する子ども)	<input type="radio"/> やさしい子ども (決まりを守り、思いやりの心をもち、助け合う子ども) <input type="radio"/> 高鍋を大好きな子ども (ふるさとを愛し、誇りに思う子ども)		
目指す教職員像	<input type="radio"/> 授業を創造・実践する教師 <input type="radio"/> 協力し合う教師	<input type="radio"/> 子どもを伸ばし、子どもと伸びる教師 <input type="radio"/> 信頼される教師		
目指す保護者像	<input type="radio"/> 子どもとともに学ぶ保護者 <input type="radio"/> 学校・地域と協力して子どもを育てる保護者	<input type="radio"/> 子どもの将来を考え、愛情と厳しさをもち、的確なしつけのできる保護者		
本年度の重点 (教育的課題)	1 学力の向上 主体的・協働的な学びの実現、特別支援教育の推進 3 たくましい心と体 健康的な生活の習慣化、体力・耐力の向上、食育の推進	2 心の教育の充実 基本的な生活習慣の定着、互いを認め合うよりよい人間関係づくり 4 地域との連携 幼保小中連携の強化、保護者・地域と連携した児童の育成		

評価項目	方策・手立て	評価指標	自己評価			学校運営協議会委員評価	
			指標別	総合	結果の考察・分析	改善策等	
たかねべ 学校 エンパワ ー事業	授業改善を中心とした子ども一人一人を伸ばすための「実効性のある」学校づくりの研究・実践	<input type="radio"/> 協働的な学びを重視した授業づくりの研究や相互授業参観を通して授業改善に努める。 <input type="radio"/> I C T の効果的な活用方法をテーマにした主題研究を展開し、職員のスキルアップに努める。	<input type="radio"/> 校内における研究授業を3回行い、協働的な学びの在り方について協議を行う。 <input type="radio"/> タブレット及びデジタル教科書の活用方法を協議し、使用率の向上に努める。	A  A	<input type="radio"/> 協働的な学びの場の効果的な設定の在り方や内容の定着の仕方などを学年部で考えることで、よりよい授業づくりに取り組むことができた。I C T の活用について、自己啓発研修を行い、指導技術を共有する機会をもつことができた。 <input type="radio"/> ケース会議のあり方を更に見直し、気軽に学校の諸問題を話し合える場を供給する。	<input type="radio"/> I C T の効果的な活用法についてさらに研修を深めるとともに、職員差が小さくなるようにする。 <input type="radio"/> 地域人材の活用を更に図ってほしい。	A
		<input type="radio"/> 子どもの認知面等の育成を図る「コグトレ」を実践していく。 <input type="radio"/> 児童の実態を的確に把握し、個に応じた指導を行う。	<input type="radio"/> 週2回設定した「コグトレ」の時間を確實に実践している。 <input type="radio"/> 特別な教育的支援を必要とする児童には個別の指導計画を作成し、指導している。	B  B	<input type="radio"/> ケース会議を積極的に設け、よい支援の在り方を検討し、実践につなげている。 <input type="radio"/> 前年度同様、地域と連携した学習を行うことができている。報道関係で取り上げてもらうことで、取組を周知することができている。	<input type="radio"/> 地域資源を更に開発し、地域の力を生かした学習に取り組んでいく。 <input type="radio"/> 幼保小の連携を更に密にし、「切れ目のない子育て支援」を今後も継続する。	
	学校、家庭、地域が一つになって高鍋町全体で子どもを育てる連携の在り方の研究・実践	<input type="radio"/> 地域コーディネーターと連携し、地域素材を積極的に活用した教育活動を展開する。 <input type="radio"/> 学校運営協議会に熟議の場を設け、コミュニティ・スクールの活性化を図る。	<input type="radio"/> 地域や保護者と連携した教育の充実に努め、70%以上の保護者が地域連携の充実を実感している。 <input type="radio"/> 熟議の場を設け、多様な意見を学校運営の参考にしている。	B  B	<input type="radio"/> 学校運営協議会にて「子どもたちに期待すること」をテーマに熟議の場を設けたことで、地域と学校がともに向かうべき方向性を確認できた。 <input type="radio"/> 本年度も幼保小連絡会を実施し、次年度入学予定の児童について情報収集を図ることができた。	<input type="radio"/> 幼保小連絡会を実施し、就学前の児童の把握に努めている。 <input type="radio"/> 福祉課・健康保険課やスクールソーシャルワーカー、関係機関との情報交換や協議を行い、よりよい支援を行っている。	
		<input type="radio"/> 幼保との連携を密にし、実態把握と指導の充実に努める。 <input type="radio"/> 子育ての支援を必要とする家庭に対して、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーと連携し、支援の充実を図る。	<input type="radio"/> 福祉課・健康保険課やスクールソーシャルワーカー、関係機関との情報交換や協議を行い、よりよい支援を行っている。	A  A	<input type="radio"/> 協働的な学びの場の設定について、研究を深め、共通理解・実践ができた。 <input type="radio"/> 児童へのアンケート結果において、わかりやすい授業について肯定的回答が80%以上となった。学力調査についても全国とほぼ同等の結果となった。 <input type="radio"/> 「家庭学習の手引き」を配付し、家庭訪問や学級懇談時に呼びかけ、充実を図った。 <input type="radio"/> ボランティアの方による「読み聞かせ」も計画的に実施することができ、本に親しませることができた。	<input type="radio"/> 次年度は協働的な場で学びにおいて教科の幅を広げた研究を計画している。 <input type="radio"/> 次年度以降も、タブレットパソコンの持ち帰りを恒常的に行い、個々の課題に応じた学習に取り組ませる。また、家庭読書（家読）の啓発を行う。	
知育	【学力の向上と定着】 ・学習規律・学習基盤の確立 ・基礎的・基本的な学習内容の確実な定着 ・主体的な学習態度の育成及び思考力・表現力の育成	<input type="radio"/> 基本的な学習習慣の定着を図る。 <input type="radio"/> 協働的な学びを重視した授業への改善を図る。 <input type="radio"/> 学習する意欲をもたせ、言語活動を通して思考力等を育成する。 <input type="radio"/> I C T を効果的に活用し、学習内容の定着を図る。 <input type="radio"/> 家庭学習の習慣化を図る。 <input type="radio"/> 読書を推進し、昨年度の読書冊数を上回る。	<input type="radio"/> 一人一人の子どもに応じて分かりやすい授業を行っている。 <input type="radio"/> 子どもたちは授業中、進んで学習に取り組んでいる。 <input type="radio"/> 学習内容の定着のために、I C T を効果的に活用している。 <input type="radio"/> 家庭学習の習慣が身に付いている。 <input type="radio"/> 子どもたちは進んで読書し、本に親しんでいる。	B  B	<input type="radio"/> 協働的な学びの場の設定について、研究を深め、共通理解・実践ができた。 <input type="radio"/> 児童へのアンケート結果において、わかりやすい授業について肯定的回答が80%以上となった。学力調査についても全国とほぼ同等の結果となった。 <input type="radio"/> 「家庭学習の手引き」を配付し、家庭訪問や学級懇談時に呼びかけ、充実を図った。 <input type="radio"/> ボランティアの方による「読み聞かせ」も計画的に実施することができ、本に親しませることができた。	<input type="radio"/> 次年度は協働的な場で学びにおいて教科の幅を広げた研究を計画している。 <input type="radio"/> 次年度以降も、タブレットパソコンの持ち帰りを恒常的に行い、個々の課題に応じた学習に取り組ませる。また、家庭読書（家読）の啓発を行う。	B
德育	【命を大切にする豊かな心の育成】 ・基本的な生活習慣の定着 ・望ましい人間関係を築こうとする心の教育 ・落ち着いて行動できる児童の育成	<input type="radio"/> すべての児童が元気にあいさつや返事が進んでできるようになる。 <input type="radio"/> 規律意識、よりよい人間関係の醸成を図る。 <input type="radio"/> 石井十次学習など様々な体験活動を通して道徳教育の充実と実体化を図り、思いやりの心、人権意識を育む。 <input type="radio"/> 保護者・地域との連携を通して、地域を大切にすることを育む。	<input type="radio"/> 学校は、いじめや差別のない温かい人間関係づくりに努めている。 <input type="radio"/> 子どもたちは楽しく学校に通っている。 <input type="radio"/> 子どもたちは、笑顔で明るいあいさつや返事ができている。 <input type="radio"/> 子どもたちは基本的な生活習慣が身に付いている。	B  B	<input type="radio"/> あいさつをする児童が増えてきている。ただ、校内でのあいさつはできているものの、校外でのあいさつは今ひとつである。 <input type="radio"/> 石井十次学習や道徳教育の充実を図ったことで、思いやりの心を育むことはできている。	<input type="radio"/> 次年度は組織的な生徒指導が実現できるような取組を工夫していく。（一部教科担任制・学年担任制の試行など） <input type="radio"/> あいさつ週間など保護者・地域との連携を意識した取組を展開していく。	B
体育	【たくましい心と体づくり】 ・健康的な生活の習慣化 ・運動に親しみ、健康でたくましい体の育成（体力向上） ・生涯にわたって楽しく明るい生活を営むための基盤づくり（食育、弁当の日）	<input type="radio"/> 外部と連携した防災教育の充実を図る。 <input type="radio"/> むし歯治療率を向上させる。 <input type="radio"/> 体力テストを利用し体力を向上させる。 <input type="radio"/> メディアコントロールに積極的に取り組み、生活リズムを向上させる。 <input type="radio"/> 外遊びを奨励し運動の日常化を図る。 <input type="radio"/> 弁当の日を年2回実施する。	<input type="radio"/> 学校は、健康でたくましい子どもを育てるために体力向上に努めている。 <input type="radio"/> 給食指導や食に関する指導の充実に努めている。 <input type="radio"/> 安全な登下校や危険から身を守る態度の育成に努めている。 <input type="radio"/> 子どもたちは生活リズムが身に付いている。	B  B	<input type="radio"/> 体力向上に努めているものの、児童の体力は低下傾向である。また、肥満傾向の児童の割合が多い。 <input type="radio"/> 自分自身の生活習慣を確認する「すくすく週間」や「メディアコントロール週間」を実施することで、基本的な生活リズムを整えるきっかけとなっている。	<input type="radio"/> 健康的な生活習慣について保護者への啓発を更に強め、学校と家庭が協力して取り組めるようにする。 <input type="radio"/> なわとび運動を基本とした家庭でのスポーツ（家ス）の啓発を行う。	B

【次年度の方向性についての校長所】学力向上では、校内研修に「協働的な学び」を中心に授業改善に取り組んだ。まだ、改善する点はあるが職員の授業スタイルは確実に変化しつつある。また、I C T の効果的な活用についてはどの学級でも授業での活用頻度が上がり、家庭学習への移行も進んだ。德育では、人と人とのつながりを意識し、地域人材や町内との連携を図り、非認知能力の育成に力を入れてきた。次年度は課題としてあがった体力の向上や基本的な生活習慣への取組を中心に、家庭との連携をさらに深めていきたい。